

今日のトピック ECBの金融政策（2017年3月） 金融緩和は今後も継続

ポイント1 金融政策を据え置き 資産購入規模は4月から減額

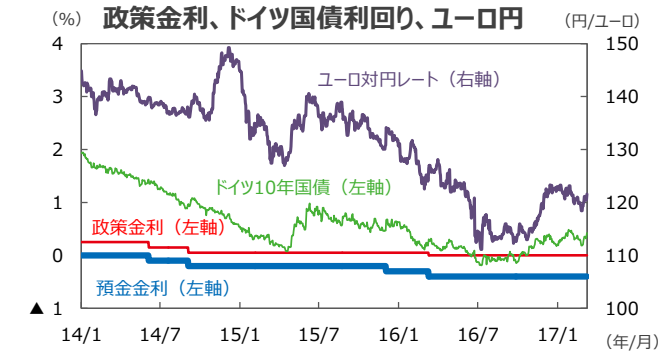
- 欧州中央銀行（ECB）は9日の理事会で、政策金利、中銀預金金利（金融機関がECBに余剰資金を預け入れた際に適用する金利）を、それぞれ0.00%、▲0.40%に据え置きました。
- 一方、国債などを買って市場に資金を供給する量的緩和政策は、購入規模を現在の月800億ユーロから4月以降、月600億ユーロに減額したうえで17年12月末まで継続することを確認しました。

ポイント2 経済見通しを上方修正 物価は低水準で安定の見込み

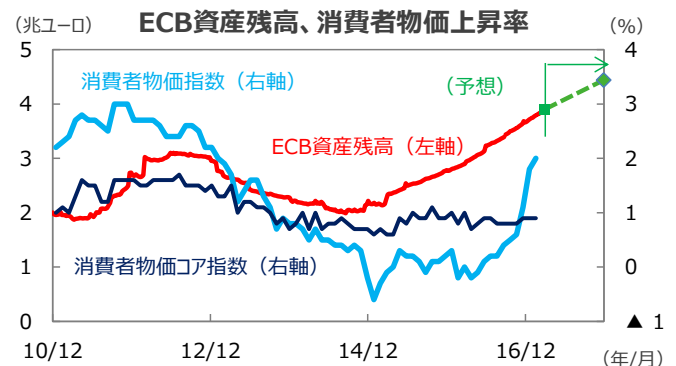
- ECBスタッフによる経済見通しは、17年、18年の成長率が+1.8%、+1.7%と、前回12月に比べともに+0.1%上方修正されました。一方、消費者物価上昇率は17年が+1.7%、18年が+1.6%でした。12月に比べ各々+0.4%、+0.1%の上方修正でしたが、最も注目された19年の予測値は+1.7%に据え置かれました。
- 物価上昇率がECBの目標値（+2%を小幅下回る水準）に届かない可能性が高いことから、今後の政策スタンスも従来と同じく「政策金利は、資産購入が終了した後も相当の期間、現状ないし、それ以下の水準で推移する見通し」とされました。

今後の展開 金融緩和は今後も継続

- 今回の声明文では、冒頭部分から「利用可能なあらゆる手段を駆使」という文言が削除されたことから、欧州の金利、ユーロの対米ドル相場は上昇しました。もっとも、声明文の全体、記者会見の内容からは、ECBの緩和スタンスに変化は見当たりません。



(注) データは2014年1月1日～2017年3月9日。
政策金利はMain Refinancing Operations 金利。
預金金利はDeposit Facility 金利（翌日物）。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注) ECB資産残高は、2010年12月31日～2017年3月3日（週次、2016年12月以降2017年3月まで月800億ユーロ、2017年4月以降12月まで月600億ユーロの資産購入を前提に計算）。
消費者物価上昇率は、2010年12月～2017年2月（月次）。
消費者物価コアは、全体からエネルギーと食品を除いたもの。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

- 欧州経済は引き続き堅調な成長を続ける見通しですが、そのペースは緩やかであり、物価上昇率の高まりも緩慢と考えられます。ECBの資産購入ペース鈍化の公算はあるものの、金融政策の転換自体は相当、先になると予想されます。

ここもチェック! 2017年2月28日 最近の欧州の指標とマーケット（2017年2月） 2017年1月11日 2017年は欧州の「選挙イヤー」（欧州）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。